

国際日本学がめざすもの..

その多面性と可能性



多様化の進む地域社会 における日本語を 見つめる研究

私たちの生活空間に他地域から引っ越して来た人や外国人が増えている。商業施設や公共交通機関などでは、外国語の表示や方言が使われる。コンビニエンスストアで店員の使う日本語に違和感を感じるようになった。そこで生じている言語事象にはどのようなものがあるのだろうか。地域社会の将来を占う上で私たちが把握しておくべきことにはどのようなものがあるのだろうか。これまで国内外で行われてきた研究成果を中心に、具体例を示しながら、考えて行きたい。

10月19日(金)

会場：東京外国語大学
研究講義棟 101 教室
時間：17:45～19:15
一般公開／入場無料／予約不要



朝日祥之氏

(国立国語研究所／本学 NINJAL
ユニット・准教授)

専門は、人の移動によることばの接触と変容。ニュータウンやサハリン、ハワイ、アメリカ本土など、人の移住によって形成された地域社会で調査研究を行う。著書に「サハリンに残された日本語権太方言」(明治書院・2012年)、「ニュータウン言葉の形成過程に関する社会言語学的研究」(ひつじ書房・2008年)「アメリカ・ハワイ日系社会の歴史と言語文化」(東京堂出版・2015年)がある。